

関東地方ダム等管理フォローアップ委員会  
第7回滝沢ダムモニタリング委員会  
議事要旨

1. 日 時 平成22年11月12日（金）15:00～17:00

2. 場 所 水資源機構 荒川ダム総合管理所 滝沢ダム管理所 会議室

3. 出席者

委 員	池 谷 奉 文	財団法人日本生態系協会会長
委 員	牧 林 功	埼玉昆虫談話会顧問
特 別 委 員	浅 枝 隆	埼玉大学大学院教授
特 別 委 員	大 渡 斉	元埼玉県水産試験場場長
特 別 委 員	佐々木 寧	埼玉大学大学院教授
特 別 委 員 [委員長]	三 島 次 郎	桜美林大学名誉教授 (敬称略、五十音順)
水資源機構本社	柏 木 順	管理事業部長
	関 根 隆 好	ダム事業部設計課主幹
	高 橋 陽 一	環境室自然環境課長
荒川ダム総合管理所	松 枝 修 治	荒川ダム総合管理所長
	星 野 公 秀	荒川ダム総合管理所第一管理課長
	西 村 重 夫	荒川ダム総合管理所滝沢ダム管理所長
	片 桐 和 男	荒川ダム総合管理所滝沢ダム管理所所長代理
	竹 本 則 夫	荒川ダム総合管理所滝沢ダム管理所主幹
国土交通省関東地方整備局	矢 作 智 之	河川部河川管理課建設専門官
	藤 田 浩	二瀬ダム管理所長

4. 議事内容

- (1) 第6回モニタリング委員会議事の確認
- (2) モニタリング調査結果の報告について
- (3) フォローアップ調査への提言
- (4) その他

## 5. 配付資料

- 第7回滝沢ダムモニタリング委員会 議事次第、委員構成、座席表、配布資料
- 資料1 第6回滝沢ダムモニタリング委員会意見への対応一覧表
- 資料2 滝沢ダムモニタリング調査結果
- 資料3 滝沢ダムモニタリング調査結果（参考資料）
- 資料4 フォローアップ調査への提言（案）

## 6. 議事要旨

### 6.1 第6回モニタリング委員会議事の確認

- ・第6回委員会議事内容及び対応状況について了承した。

### 6.2 モニタリング調査結果の報告

#### ■水質

- ・貯水池底層 DO 値が低く低酸素状態の時期があるが、将来富栄養化の原因ともなりうることから、原因を検討しておくこと。

#### ■生物

- ・下流河川の河床構成材料は、砂州上の粒径が細かく変化し、これにより草本も侵入してきている。今後もこの傾向は顕著になると考えられことから、その旨を記載すべきと考えられる。
- ・下流の河川植生での植生断面の経年変化図と一覧表で整合していない箇所がある。植生面積の経年変化一覧表でも不自然なデータが見られる。これらについてもう一度精査が必要と思われる。
- ・例えば鳥類の確認種一覧表において、外来種は、いるべきではない種であることから、在来種とは別の表にとりまとめるべきである。
- ・巻き枯らしの効果が見られないことから、再度実施すること。
- ・クマタカ・オオタカの繁殖成績は近年良くない。また、クマタカが原石山跡地で生息が確認されることを目標としてきたが、まだ戻ってきていない。評価はこれらを踏まえたものとするべきと思われる。
- ・モニタリング調査結果について、工事期間は大きな変化があったはずであり、そのような変化・課題を抽出し、今後のフォローアップ調査で追跡するという形にするのがよい。評価は、そういった視点で行うことが必要である。

### 6.3 フォローアップ調査への提言

- ・フォローアップの結果で検証できるように、「現時点では、変化の兆候が確認されており、今後さらに変化すると予測されるため、今後の調査で確認していく」と表現してはどうか。
- ・ブラックバスが貯水池に侵入していないことは評価できる。今後、職員が巡視し万一、発見時に「対策を講じる」ということが必要である。対策方法は様々であるが、専門家に助言を仰ぐと良い。
- ・今後は外来種が増加すると考えられる。経年的な外来種の変化を追えるようにすることは重要である。
- ・地域の活性化に関して、「自然を残すことが地域の観光資源になる」という意識で地域の NPO 等にも取り組んでもらいたい。

(以上)